

加入者の声を聞きました

収入保険は、自然災害による収量減少に加え、市場価格の低下なども含めた農業収入の減少を総合的に補てんする制度です。
 今回、加入者の有限会社フクハラファーム 代表取締役社長 福原悠平さんの声を紹介します。

彦根市薩摩町

有限会社フクハラファーム

代表取締役社長

福原 悠平さん(36歳)

〔経営規模〕米190[㍔]、麦22[㍔]、

キャベツ15[㍔] ほか



Q 経営内容を教えてください

1994年に法人設立し、役員2人、正社員13人で水稲を中心に麦、キャベツなど栽培しています。

水稲では、3割程度の圃場で「滋賀県環境こだわり農産物」認証を取得し、減農薬・減化学肥料栽培をしています。また、一部の圃場では有機JAS認証を取得し、農薬・化学

肥料を一切使用せず、アイガモを圃場に放つ「アイガモ農法」で有機栽培にも取り組んでいます。

キャベツは、契約栽培をしていて、主にカット野菜の工場に出荷しています。

Q 収入が落ち込んだことはありますか？

平成30年産は、台風の影響で過去最低の収穫量となり、売上げが約1割落ちました。

Q 今後の営農で不安なことは？

近年の自然災害を見ると、いつ被害にあうか不安です。備えの必要性を強く感じています。

栽培面積は増えていますが、面積を増やすことが大切なのではなく、コストを下げるのが重要だと考えています。規模が大きくなることで



スケールデメリットも大きくなっていくので、有効的なリスクマネジメントが重要になってきますね。

Q 収入保険を選んだ理由、魅力を感じる部分は？

想定外の自然災害や今後の農業情勢を考え、経営面のリスクを幅広く補償してくれるところに魅力を感じました。今まで十分な補償がなかった野菜が補償対象になっているのもいいですね。また、社員の手続きに必要書類も分かりやすく簡単なのもいいです。

NOSA職員熱心な推進にも心打たれました。

農業保険の普及推進に関する協定を締結しました

令和2年2月21日、ライズヴィル都賀山(守山市)において第43回滋賀県稲作経営者会議総会が開催され、滋賀県稲作経営者会議(中井榮夫会長)と当組合(山下英利組合長理事)が農業保険の普及推進に関する協定を締結しました。

今回の協定により、農業保険に係る普及推進に連携して取組み、会員の生産性の向上や安定的な経営を実現するとともに、地域農業の発展に寄与することを目的としています。

なお、令和元年12月2日には、滋賀県指導農業士会ならびに滋賀県主食集荷商業協同組合と協定を締結しています。



中井榮夫会長(左)と山下英利組合長理事(右)